

4 生活問題とくらしの単位としての世帯

生活問題はくらしの単位としての世帯に特徴があらわれる。ここでは、世帯構成別、あるいは介護の必要な家族のいる世帯や子どものいる世帯別にくらしの実態をみてみる。

(1) 世帯の変化（表Ⅱ－55、表Ⅱ－56、表Ⅱ－57、表Ⅱ－58、表Ⅱ－59、表Ⅱ－60）
世帯構成は全体として「夫婦と子」29.2%、「夫婦のみ」26.4%が高い。「単身」世帯は16.9%、「三世帯」が15.4%である。2005年の国勢調査では、「夫婦と未婚の子」と「単身」の割合がそれぞれ3割弱とほぼ拮抗している。南丹市全体（表Ⅱ－47）では、「単身」が最も多く27.5%、次いで「夫婦と子」が24.7%と続いている。南丹市平均と全国平気を比較してみると南丹市では「三世帯」の割合が高いのが特徴であろう。年次推移からみると、全国的にも南丹市においても、今後「三世帯」が減少し「単身」が増加していくことは間違いないであろう。

表Ⅱ－55 性別年齢別世帯構成

	合計	三世帯	夫婦と子	夫婦と親	一人親と子	夫婦のみ	単身	その他
総数	100% 823	15.4 127	29.2 240	5.6 46	5.7 47	26.4 217	16.9 139	0.9 7
男性	100% 683	17.4 119	34.0 232	6.4 44	3.5 24	30.7 210	7.2 49	0.7 5
25歳未満	100% 8		12.5 1			12.5 1	75.0 6	
25歳～34歳	100% 31	6.5 2	64.5 20		3.2 1	12.9 4	12.9 4	
35歳～44歳	100% 85	11.8 10	64.7 55		4.7 4	9.4 8	9.4 8	
45歳～54歳	100% 131	29.8 39	47.3 62	3.8 5	5.3 7	9.2 12	3.8 5	0.8 1
55歳～64歳	100% 184	19.0 35	26.6 49	16.8 31	3.8 7	26.6 49	6.0 11	1.1 2
65歳～74歳	100% 112	17.0 19	24.1 27	5.4 6	0.9 1	49.1 55	2.7 3	0.9 1
75歳以上	100% 132	10.6 14	13.6 18	1.5 2	3.0 4	61.4 81	9.1 12	0.8 1
女性	100% 140	5.7 8	5.7 8	1.4 2	16.4 23	5.0 7	64.3 90	1.4 2
25歳～34歳	100% 1					100.0 1		
35歳～44歳	100% 10	20.0 2	50.0 5		20.0 2	10.0 1		
45歳～54歳	100% 9	11.1 1	11.1 1		44.4 4	11.1 1	22.2 2	
55歳～64歳	100% 18	5.6 1	5.6 1	5.6 1	38.9 7	5.6 1	38.9 7	
65歳～74歳	100% 31	9.7 3	3.2 1		25.8 8	9.7 3	48.4 15	3.2 1
75歳以上	100% 71	1.4 1		1.4 1	2.8 2		93.0 66	1.4 1

今回調査の結果では「単身」の世帯が南丹市平均よりやや低く「夫婦のみ」「三世帯」「夫婦と子」の割合が高めとなっている。

年齢別に世帯の変化をみると、ライフサイクルと世帯の変化があらわれている。年齢が高くなれば「夫婦のみ」「単身」が合計値に比べ高い割となっていく傾向がでている。また、特に女性で高齢「単身」の傾向が明確に出ていること、「一人親と子」の割合が多く年齢で高い割合となっているなどの特徴がある。

世帯構成別に介護の必要な家族と介護者についてみると、「三世帯」「夫婦と親」の世帯で、「介護の必要な家族がいる」の割合が高く、また、それぞれ「同居している」割合も高い。主な介護者は「三世帯」では「配偶者」、「夫婦と子」では、「未婚の子ども」「父親」「母親」、「夫婦と親」では「配偶者」と「子どもの配偶者」、「一人親と子」では「生計中心者」「未婚の子ども」、「夫婦のみ」では「生計中心者」、「単身」では「結婚している子ども」の割合が合計値より高い。

表Ⅱ－56 世帯構成別にみた介護の必要な家族と介護者の状況

	総数	介護の必要な家族はいない	介護の必要な家族がいる	生計中心者（単身者は自分自身）	配偶者	未婚の子ども	父親	母親	きょうだい	孫	その他
合計	100% 823	(83.7) 689	(16.3) 134	17.9 24	12.7 17	5.2 7	17.2 23	37.3 50	2.2 3	2.2 3	0.7 1
三世帯	100% 127	(70.9) 90	(29.1) 37	2.7 1	5.4 2	8.1 3	29.7 11	54.1 20	2.7 1	8.1 3	
夫婦と子	100% 240	(93.3) 224	(6.7) 16	12.5 2	6.3 1	18.8 3	25.0 4	31.3 5			
夫婦と親	100% 46	(56.5) 26	(43.5) 20	5.0 1	5.0 1		5.0 1	90.0 18			5.0 1
一人親と子	100% 47	(89.4) 42	(10.6) 5	20.0 1		20.0 1	20.0 1	20.0 1	20.0 1		
夫婦のみ	100% 217	(87.6) 190	(12.4) 27	25.9 7	44.4 12		18.5 5	14.8 4			
単身	100% 139	(79.9) 111	(20.1) 28	42.9 12	3.6 1		3.6 1	7.1 2			
その他	100% 7	(85.7) 6	(14.3) 1						100.0 1		

表Ⅱ－57 世帯構成別にみた介護の必要な家族の所在

	総数	介護の必要な家族はいない	介護の必要な家族がいる	同居している（単身は独居）	入院している	入所している	近所に住んでいる	その他
合計	100% 823	(83.7) 689	(16.3) 134	67.9 91	5.2 7	11.9 16	6.0 8	1.5 2
三世帯	100% 127	(70.9) 90	(29.1) 37	86.5 32	10.8 4	8.1 3		
夫婦と子	100% 240	(93.3) 224	(6.7) 16	43.8 7	12.5 2	18.8 3	12.5 2	12.5 2
夫婦と親	100% 46	(56.5) 26	(43.5) 20	85.0 17	5.0 1	5.0 1	5.0 1	
一人親と子	100% 47	(89.4) 42	(10.6) 5	80.0 4			20.0 1	
夫婦のみ	100% 217	(87.6) 190	(12.4) 27	66.7 18		22.2 6	11.1 3	
単身	100% 139	(79.9) 111	(20.1) 28	42.9 12		10.7 3	3.6 1	
その他	100% 7	(85.7) 6	(14.3) 1	100.0 1				

表Ⅱ－58 世帯構成別にみた介護者

	総数	介護の必要な家族はいない	介護の必要な家族がいる	生計中心者	配偶者	未婚の子ども	結婚している子ども	子どもの配偶者	父親	母親	きょうだい	孫	介護職など
合計	100% 823	(83.7) 689	(16.3) 134	29.1 39	40.3 54	3.0 4	2.2 3	2.2 3	2.2 3	3.7 5	0.7 1	1.5 2	20.9 28
三世帯	100% 127	(70.9) 90	(29.1) 37	16.2 6	67.6 25	5.4 2	2.7 1	2.7 1	5.4 2	5.4 2		2.7 1	10.8 4
夫婦と子	100% 240	(93.3) 224	(6.7) 16	31.3 5	25.0 4	6.3 1			6.3 1	12.5 2			18.8 3
夫婦と親	100% 46	(56.5) 26	(43.5) 20	25.0 5	75.0 15			5.0 1					15.0 3
一人親と子	100% 47	(89.4) 42	(10.6) 5	60.0 3		20.0 1				20.0 1			
夫婦のみ	100% 217	(87.6) 190	(12.4) 27	55.6 15	37.0 10						3.7 1		22.2 6
単身	100% 139	(79.9) 111	(20.1) 28	14.3 4			7.1 2	3.6 1				3.6 1	42.9 12
その他	100% 7	(85.7) 6	(14.3) 1	100.0 1									

表Ⅱ－59 全国の世帯構成別世帯数の年次推移

世帯構成	総数	三世代	夫婦と未婚の子	夫婦と親	ひとり親と未婚の子	夫婦のみ	単身	その他
年次								
1975年	100% 33,596	11.9 3,982	42.5 14,290	1.5 500	5.4 1,810	11.5 3,880	19.5 6,561	7.5 2,504
1980年	100% 35,824	12.2 4,370	42.1 15,081	1.7 608	5.7 2,053	12.4 4,460	19.8 7,105	5.8 2,084
1985年	100% 37,980	11.9 4,506	40.0 15,189	1.8 683	6.3 2,403	13.7 5,212	20.8 7,895	5.3 2,019
1990年	100% 40,670	10.6 4,301	37.3 15,172	1.9 767	6.8 2,753	15.5 6,294	23.1 9,390	2.8 1,149
1995年	100% 43,900	9.2 4,045	34.2 15,032	2.0 865	7.1 3,108	17.4 7,619	25.6 11,239	4.0 1,774
2000年	100% 46,782	7.5 3,526	31.9 14,919	2.0 937	7.6 3,578	18.9 8,835	27.6 12,911	4.0 1,884
2005年	100% 49,063	6.1 3,004	29.9 14,646	2.0 985	8.4 4,112	19.6 9,637	29.5 14,457	4.0 1,954

総務省「国勢調査」

表Ⅱ－60 南丹市におけるくらしの単位である世帯構成別世帯数の年次推移

年	町名	総数	三世帯	夫婦と子	夫婦と親	片親と子	夫婦のみ	の親族夫婦と他	単身	その他
1995年	南丹市合計	100% 11,605	19.1 2,214	25.0 2,897	4.3 502	5.5 638	17.4 2,016	4.6 534	22.7 2,634	1.5 170
2000年		100% 12,292	15.9 1,954	24.3 2,990	4.1 499	5.9 727	18.7 2,304	3.7 457	25.7 3,155	1.7 206
2005年		100% 12,369	12.8 1,586	24.7 3,049	4.1 507	6.1 749	19.3 2,392	3.6 446	27.5 3,401	1.9 239
1995年	園 部 町	100% 5,172	16.1 831	27.8 1,440	2.9 149	5.7 293	14.2 737	4.1 211	28.0 1,447	1.2 64
2000年		100% 5,780	12.9 744	26.5 1,533	2.6 152	5.7 328	15.2 879	3.1 178	32.7 1,890	1.3 76
2005年		100% 5,847	10.7 623	27.3 1,597	2.8 162	6.0 350	15.4 900	3.2 188	32.8 1,918	1.9 109
1995年	八 木 町	100% 2,810	23.9 672	26.3 738	4.1 115	5.5 155	15.9 446	5.3 149	17.4 488	1.7 47
2000年		100% 2,782	20.9 582	24.6 685	4.4 122	6.3 176	18.2 506	4.6 129	18.6 518	2.3 64
2005年		100% 2,792	16.8 468	23.4 652	4.2 117	6.4 180	19.8 553	4.8 134	22.7 633	2.0 55
1995年	日 吉 町	100% 1,889	19.5 368	24.4 460	5.2 99	5.7 107	19.8 374	5.0 95	18.7 354	1.7 32
2000年		100% 2,007	16.7 336	24.3 487	5.1 102	6.7 134	21.3 428	4.2 84	19.8 397	1.9 39
2005年		100% 2,029	12.6 255	25.1 510	5.0 101	6.7 135	21.2 431	3.8 77	23.3 473	2.3 47
1995年	美 山 町	100% 1,734	19.8 343	14.9 259	8.0 139	4.8 83	26.5 459	4.6 79	19.9 345	1.6 27
2000年		100% 1,723	16.9 292	16.5 285	7.1 123	5.2 89	28.5 491	3.8 66	20.3 350	1.6 27
2005年		100% 1,701	14.1 240	17.0 290	7.5 127	4.9 84	29.9 508	2.8 47	22.2 377	1.6 28
1995年から2005年の変化（割合）	南丹市合計	104.5	71.0	105.5	101.0	115.7	118.0	79.9	126.3	137.8
	八 木 町	99.4	69.6	88.3	101.7	116.1	124.0	89.9	129.7	117.8
	日 吉 町	107.4	69.3	110.9	102.0	126.2	115.2	81.1	133.6	144.8
	園 部 町	113.1	75.0	110.9	108.7	119.5	122.1	89.1	132.6	171.2
	美 山 町	98.1	70.0	112.0	91.4	101.2	110.7	59.5	109.3	117.4

総務省「国勢調査」

(2) 暮らしの面での困りごと（表Ⅱ－61）

困りごとが「ある」と回答している割合が高いのは、「三世帯」「夫婦と親」「夫婦のみ」の世帯である。

「三世帯」では、「自由な時間や休日がない」「就職が困難」「失業や事業の不振」「働き手の死亡」「労働時間が長い」などの仕事に関わる内容をはじめ、「税金が高い」「物価が高い」「災害時の備え」などの暮らしの基盤にかかわる項目が合計値より高い割合のものが多く。「夫婦と子」の世帯では、困りごとが「ない」という割合が合計値に比べ高いものの、困りごとの具体的内容では「病人や老人・障がい者の介護」「貯金ができない」「借金・ローンの返済」「家計の赤字」「子どもの教育・進学」「子育てのこと」といった暮らしの中身に関する項目に合計値より高い割のものが多く。「一人親と子」の世帯では、「収入が不安定」「賃金・事業収入が低い」「就職が困難」「税金が高い」「移動が困難」といった暮らしの基盤に関する困難、「地域での共同作業に出るのが難しい」といった暮らしを支える条件に関する内容、国・自治体による社会保障・社会福祉では「保険料（税）が高い」、暮らしの中身に関しては「家計の赤字」「結婚がむずかしい」など深刻な状況となっている。「単身」では、困りごととは「ない」という回答が

合計値に比べ高いものの「通院が困難」「相談相手がいらない」「老後のこと」「年金が少ない」といった内容が合計値より高い割合としてあらわれており、厳しい状況である。

介護の必要な家族のいる世帯における暮らしの面での困りごとでは、いずれの世帯においても困りごとが「ある」という割合が高く、特に「夫婦のみ」の世帯においては96.3%が「ある」としている。いずれの世帯においても「移動が困難」「家族の病気・事故」「病人や老人・障がい者の介護」は高い割合である。加えて、「夫婦のみ」の世帯では「地域の共同作業に出るのがむずかしい」「近所づきあいがむずかしい」「相談相手がいらない」など暮らしを支える条件の項目が高い割のものが多く。「単身」の世帯では、「ある」が100%であり、「相談相手がいらない」が高い割合となっている。

「小学生以下の子どもいる世帯」においては、「子どもの通学・通園」「移動が困難」といった項目や「地域の共同作業に出るのがむずかしい」「貯金ができない」「借金・ローンの返済」「子どもの教育・進学」「子育てのこと」が合計値より高い。

以上のように、生活問題は暮らしの単位である世帯の状況によってあらわれ方が違ってくる。

表Ⅱ－61 世帯構成別にみたくらしの面での困りごと（複数回答）

	総 数	な い	あ る	くらしの基盤																
				収入が不安定	賃金、事業収入が低い	自由な時間や休日が少ない	通勤に時間がかかる	就職が困難	しごこの後継者がいない	失業や事業の不振	働き手の死亡	労働時間が長い	税金が高い	物価が高い	災害時のそなえ	通院が困難	安心してかかれる医療機関が近くにない	子どもの通学・通園	移動が困難	
合 計	100% 823	(25.0) 206	(75.0) 617	17.5 108	13.3 82	7.6 47	7.5 46	6.8 42	6.5 40	6.0 37	5.0 31	4.4 27	22.2 137	13.8 85	13.3 82	19.9 123	16.5 102	5.3 33	2.8 17	
三 世 帯	100% 127	(21.3) 27	(78.7) 100	15.0 15	9.0 9	13.0 13	3.0 3	12.0 12	4.0 4	10.0 10	8.0 8	9.0 9	30.0 30	20.0 20	22.0 22	15.0 15	13.0 13	7.0 7		
夫 婦 と 子	100% 240	(30.4) 73	(69.6) 167	21.0 35	19.2 32	9.6 16	10.8 18	6.6 11	7.8 13	9.0 15	4.2 7	4.8 8	21.6 36	10.8 18	6.6 11	14.4 24	13.8 23	12.6 21	2.4 4	
夫 婦 と 親	100% 46	(19.6) 9	(80.4) 37	21.6 8	13.5 5	16.2 6	2.7 1	2.7 1	5.4 2	2.7 1	2.7 1		16.2 6	8.1 3	29.7 11	16.2 6	13.5 5		2.7 1	
一 人 親 と 子	100% 47	(25.5) 12	(74.5) 35	25.7 9	25.7 9	2.9 1	5.7 2	20.0 7	5.7 2	8.6 3	2.9 1	2.9 1	25.7 9	14.3 5	2.9 1	20.0 7	14.3 5	2.9 1	11.4 4	
夫 婦 の み	100% 217	(20.3) 44	(79.7) 173	15.6 27	11.6 20	4.6 8	11.0 19	4.0 7	8.7 15	3.5 6	8.1 14	4.0 7	23.1 40	14.5 25	9.8 17	24.9 43	25.4 44	2.3 4	2.3 4	
単 身	100% 139	(28.8) 40	(71.2) 99	14.1 14	7.1 7	3.0 3	3.0 3	3.0 3	4.0 4	2.0 2		2.0 2	15.2 15	13.1 13	2.0 2	26.3 26	12.1 12		4.0 4	
そ の 他	100% 7	(14.3) 1	(85.7) 6					16.7 1					16.7 1	16.7 1		33.3 2				

くらしを支える条件				国・自治体による社会保障・社会福祉				くらしの中身														
地域での共同作業に出るのがむずかしい	近所づきあいがむずかしい	家庭での対話が少ない	相談相手がいらない	老後のこと	年金が少ない	保険料（税）が高い	医療費が高い	入院費用がかかる	生計中心者の病気・事故	家族の病気・事故	病人や老人・障がい者の介護	貯金ができない	借金・ローンの返済	家計の赤字	子どもの教育・進学	子育てのこと	結婚が難しい	住まいのこと	食生活のこと	炊事・洗濯・掃除などの家事	その他	
7.8 48	6.5 40	4.4 27	3.6 22	32.3 199	25.9 160	20.6 127	15.9 98	6.2 38	28.2 174	23.2 143	10.4 64	21.2 131	11.3 70	9.6 59	8.8 54	6.0 37	6.5 40	4.5 28	4.5 28	4.2 26	1.9 12	
6.0 6	6.0 6	4.0 4	4.0 4	34.0 34	24.0 24	29.0 29	14.0 14	9.0 9	26.0 26	27.0 27	19.0 19	24.0 24	11.0 11	9.0 9	18.0 18	8.0 8	6.0 6	2.0 2	4.0 4	4.0 4	1.0 1	
6.0 10	3.6 6	3.0 5	1.2 2	25.1 42	14.4 24	18.6 31	10.8 18	4.8 8	25.7 43	22.8 38	16.8 28	24.6 41	18.6 31	13.2 22	19.2 32	14.4 24	10.8 18	4.8 8	2.4 4	3.6 6		
2.7 1		5.4 2		37.8 14	32.4 12	18.9 7	8.1 3		18.9 7	24.3 9	8.1 3	24.3 9	5.4 2	5.4 2			5.4 2		2.7 1	2.7 1		
14.3 5	5.7 2	5.7 2		31.4 11	28.6 10	28.6 10	11.4 4	5.7 2	17.1 6	25.7 9	11.4 4	17.1 6	5.7 2	14.3 5		2.9 1	17.1 6		5.7 2	5.7 2	2.9 1	
9.8 17	9.8 17	4.6 8	4.6 8	41.0 71	32.4 56	20.2 35	15.6 27	8.7 15	35.3 61	32.4 56	19.1 33	23.1 40	11.6 20	9.8 17	2.3 4	2.3 4	2.9 5	6.9 12	6.9 12	3.5 6	2.9 5	
9.1 9	9.1 9	6.1 6	8.1 8	25.3 25	33.3 33	15.2 15	16.2 16	4.0 4	30.3 30	2.0 2	11.1 11	11.1 11	4.0 4	4.0 4			3.0 3	5.1 5	4.0 4	6.1 6	5.1 5	
				33.3 2	16.7 1				16.7 1	33.3 2								16.7 1	16.7 1	16.7 1		

(3) 暮らしの基盤（表Ⅱ－62、表Ⅱ－63、表Ⅱ－64）

では、次に世帯構成ごとにくらしの基盤をみる。

まず、世帯構成別に階層構成をみてみると、「三世帯」で最も多いのは「自営業者層」で37％である。また、「ホワイトカラー層」「不安定雇用者層」「自営業者層」などが合計値より高い割合となっている。「夫婦と子」でも「自営業者層」が最も多く30.8％を占めている。合計値に比べ割合が高いのは「ホワイトカラー層」「ブルーカラー層」「自営業者層」である。「夫婦と親」でも「自営業者層」が多く30.4％である。合計値と比較して高いのは「経営者層」「不安定雇用者層」「自営業者層」である。「夫婦のみ」「単身」については「無業者層」が高い割合となっており、特に「単身」における「無業者層」占める割合は約7割を占めている。

収入源をみると、「三世帯」では「生計中心者と家族の仕事」「家族の仕事と年金」といった項目が高い割合である。「夫婦と子」では「生計中心者と家族の仕事」「生計中心者の仕事のみ」、「夫婦と親」では「生計中心者と家族の仕事」が高い割合となっている。これは、就業者の構成からも明らかなように「三世帯」や「夫婦と子」の世帯では、働いている家族が多く、くらしが世帯の成員によって力を合わせて営まれている状況をあらわしている。一方「一人親と子」「単身」では、収入源が「生計中心者の仕事のみ」あるいはそれにくわえて年金の割合が高くなっている。特に「単身」では就業者でも「働いている人はいない」割合が7割弱を占めているなど、くらしの基盤が脆弱な状況となっている。

表Ⅱ－62 世帯構成別にみた階層構成

		合計	経営者層	ホワイトカラー層	ブルーカラー層	不安定雇用者層	自営業者層	無業者層
総数	100%	823	3.5	13.7	9.1	14.7	27.0	32.0
		29	113	75	121	222	263	
三世帯	100%	127	2.4	21.3	6.3	18.1	37.0	15.0
		3	27	8	23	47	19	
夫婦と子	100%	240	4.2	22.1	18.3	14.6	30.8	10.0
		10	53	44	35	74	24	
夫婦と親	100%	46	6.5	13.0	10.9	21.7	30.4	34.8
		3	6	5	10	14	16	
一人親と子	100%	47	2.1	14.9	4.3	14.9	29.8	34.0
		1	7	2	7	14	16	
夫婦のみ	100%	217	5.5	7.4	5.1	12.9	24.9	44.2
		12	16	11	28	54	96	
単身	100%	139		2.9	3.6	12.2	12.9	68.3
		4	5	17	18	95		
その他	100%	7				14.3	14.3	71.4
		1			1	5		

表Ⅱ－63 世帯構成別にみた収入源（類型）

	総数	生計中心者の仕事のみ	生計中心者と家族の仕事	家族の仕事と年金	主に厚生年金	主に国民年金（生活保護のぞく）	生活保護	その他
総数	100%	22.6	44.6	8.4	9.6	12.6	1.1	1.1
	823	186	367	69	79	104	9	9
三世帯	100%	7.9	76.4	13.4	1.6	0.8		
	127	10	97	17	2	1		
夫婦と子	100%	26.7	62.9	8.3	0.4	1.3		0.4
	240	64	151	20	1	3		1
夫婦と親	100%	13.0	67.4	8.7	6.5	4.3		
	46	6	31	4	3	2		
一人親と子	100%	29.8	36.2	19.1	4.3	6.4	2.1	2.1
	47	14	17	9	2	3	1	1
夫婦のみ	100%	23.0	31.8	7.8	18.9	18.4		
	217	50	69	17	41	40		
単身	100%	30.2			21.6	37.4	5.8	5.0
	139	42			30	52	8	7
その他	100%		28.6	28.6		42.9		
	7		2	2		3		

表Ⅱ－64 世帯構成別にみた就業者の構成（類型）

	総数	生計中心者のみ	生計中心者と配偶者	生計中心者と配偶者と子	生計中心者と子ども	生計中心者と配偶者と親	生計中心者と子、親や兄弟	働いている人はいない
総数	100%	22.8	28.1	8.4	11.0	3.2	2.4	24.1
	823	188	231	69	91	26	20	198
三世帯	100%	7.9	23.6	19.7	19.7	17.3	9.4	2.4
	127	10	30	25	25	22	12	3
夫婦と子	100%	26.7	35.4	17.9	16.3		1.7	2.1
	240	64	85	43	39		4	5
夫婦と親	100%	13.0	65.2		2.2	8.7		10.9
	46	6	30		1	4		5
一人親と子	100%	29.8		2.1	55.3			12.8
	47	14		1	26			6
夫婦のみ	100%	23.0	39.6					37.3
	217	50	86					81
単身	100%	31.7						68.3
	139	44						95
その他	100%						57.1	42.9
	7						4	3

(4) くらしを支える条件（表Ⅱ－65、表Ⅱ－66、表Ⅱ－67）

近所づきあいでは「三世帯」と「夫婦と親」で「くらしのことで助け合っている」の割合が合計値より高く、「夫婦と子」では「挨拶をする程度」が高い割合となっている。一方、「単身」は「ほとんどつきあっていない」の割合が合計値に比べ高いが、「困りごとや悩み事を相談しあう」「家にあがりこんでつきあいをしている」といった項目も高く、近所とのつきあいは二分されている。「夫婦と親」「夫婦のみ」ではくらしのことで助け合っている項目が合計値より高い割合のものも多く、「一人親と子」では「緊急時の連絡や援助」といった、いざというときのつきあいとなっているのが特徴的である。

相談相手では、「三世帯」でいると回答している割合が96.1%と高いが「一人親と子」の世帯では「いない」と回答している割合が合計値に比べ高い。また、相談相手の内容としては「三世帯」「夫婦と親」では「身内と知人・友人」など広がりがあるが、「夫婦と子」「一人親と子」「夫婦のみ」の世帯では、「身内のみ」の類型が高い割合を

表Ⅱ－65 世帯構成別にみた近所づきあい（助け合っている内容は複数回答）

	総 数	ほとん どつきあ っていない	挨拶 をする程 度	くらしの ことで助 け合っ ている	冠婚葬 祭や病 人の見 舞い	自分 の家で つくっ たもの をわけ あう	困り ごとや 悩みを 相談し 合う	緊急 時の 連絡 や援 助	家にあ がりこ んでつ きあい をして いる	お年 寄りの 話し相 手	留守 を頼む	買い 物を 引き受 ける	お年 寄りや 子ども の世話を 頼む	送迎・ 乗り合 い
総 数	100% 823	(3.0) 25	(31.6) 260	(65.4) 538	99.8 537	61.9 333	48.1 259	40.5 218	38.8 209	26.0 140	24.5 132	16.7 90	9.7 52	1.5 8
三 世 帯	100% 127	(1.6) 2	(22.0) 28	(76.4) 97	100.0 97	63.9 62	45.4 44	41.2 40	40.2 39	27.8 27	24.7 24	16.5 16	13.4 13	
夫 婦 と 子	100% 240	(0.8) 2	(40.4) 97	(58.8) 141	99.3 140	50.4 71	46.1 65	36.9 52	36.2 51	17.0 24	17.0 24	13.5 19	13.5 19	1.4 2
夫 婦 と 親	100% 46	(2.2) 1	(23.9) 11	(73.9) 34	100.0 34	73.5 25	50.0 17	52.9 18	38.2 13	41.2 14	41.2 14	17.6 6	8.8 3	
一 人 親 と 子	100% 47	(4.3) 2	(29.8) 14	(66.0) 31	100.0 31	61.3 19	38.7 12	45.2 14	38.7 12	19.4 6	25.8 8	19.4 6	6.5 2	
夫 婦 の み	100% 217	(2.3) 5	(33.6) 73	(64.1) 139	100.0 139	73.4 102	49.6 69	46.0 64	35.3 49	30.9 43	31.7 44	20.1 28	8.6 12	2.2 3
単 身	100% 139	(9.4) 13	(22.3) 31	(68.3) 95	100.0 95	56.8 54	53.7 51	31.6 30	47.4 45	27.4 26	18.9 18	15.8 15	3.2 3	3.2 3
そ の 他	100% 7		(85.7) 6	(14.3) 1	100.0 1		100.0 1							

占めている。特に「一人親と子」は半数以上が「身内のみ」の類型である。一方、「単身」では「身内と地域の方や専門職など」の類型が高い。

地域活動では近所づきあいと同じく「三世帯」と「夫婦と親」では「参加している」の割合が合計値より高く、「単身」では「参加していない」の割合が相対的に高い。「一人親と子」「夫婦のみ」「単身」では「町内会のみ」のタイプの割合が高く、「三世帯」「夫婦と子」では「老人クラブや青年会・女性会や子ども会・PTAなど」の類型が割合となっている。「夫婦と親」では「ボランティアやNPOなど」「くらしに関する学習会など」の割合が高く活動への参加に広がりがある。なお「単身」で「生協・業者団体」が高いのは、宅配の利用の影響である。

このように「三世帯」や「夫婦と親」の世帯では近所つきあいや地域活動、相談相手など、地域での交流や協同・協力が幅広く展開されている。一方、「夫婦と子」「一人親と子」「夫婦のみ」「単身」では交流に広がりがない。

表Ⅱ－66 世帯構成別にみた相談相手

	総 数	い ない	い る	身内 のみ	市役所 や専門 職のみ	身内 と知人・ 友人	身内と 地域の方 や専門職 など
総 数	100% 823	(7.7) 63	(92.3) 760	38.8 295	5.7 43	28.8 219	26.7 203
三 世 帯	100% 127	(3.9) 5	(96.1) 122	35.2 43	7.4 9	35.2 43	22.1 27
夫 婦 と 子	100% 240	(7.5) 18	(92.5) 222	43.7 97	2.7 6	31.5 70	22.1 49
夫 婦 と 親	100% 46	(6.5) 3	(93.5) 43	32.6 14	7.0 3	37.2 16	23.3 10
一 人 親 と 子	100% 47	(12.8) 6	(87.2) 41	51.2 21	7.3 3	24.4 10	17.1 7
夫 婦 の み	100% 217	(8.8) 19	(91.2) 198	41.9 83	7.6 15	24.2 48	26.3 52
単 身	100% 139	(8.6) 12	(91.4) 127	27.6 35	4.7 6	23.6 30	44.1 56
そ の 他	100% 7		(100.0) 7	28.6 2	14.3 1	28.6 2	28.6 2

表Ⅱ－67 世帯構成別にみた参加している活動（類型）

	総 数	参 加 し て い ない	参 加 し て い る	町 内 会 の み	生 協 ・ 業 者 団 体	趣 味 ・ ス ポ ー ツ	老 人 ・ 青 年 ・ 女 性 ・ 子 ど も ・ P T A な ど	ボ ラ ン テ ィ ア ・ N P O な ど	へ う く し に 関 する 学 習 会 な ど
総 数	100% 823	(15.6) 128	(84.4) 695	19.1 133	11.8 82	7.9 55	40.3 280	14.0 97	6.9 48
三 世 帯	100% 127	(5.5) 7	(94.5) 120	12.5 15	9.2 11	8.3 10	46.7 56	15.0 18	8.3 10
夫 婦 と 子	100% 240	(16.3) 39	(83.8) 201	14.4 29	11.4 23	9.5 19	44.3 89	14.4 29	6.0 12
夫 婦 と 親	100% 46	(6.5) 3	(93.5) 43	14.0 6	7.0 3	7.0 3	37.2 16	18.6 8	16.3 7
一 人 親 と 子	100% 47	(17.0) 8	(83.0) 39	25.6 10	12.8 5	5.1 2	30.8 12	15.4 6	10.3 4
夫 婦 の み	100% 217	(14.3) 31	(85.7) 186	23.1 43	13.4 25	7.5 14	36.6 68	12.4 23	7.0 13
単 身	100% 139	(26.6) 37	(73.4) 102	26.5 27	14.7 15	6.9 7	37.3 38	12.7 13	2.0 2
そ の 他	100% 7	(42.9) 3	(57.1) 4	75.0 3			25.0 1		

(5) 家計支出の構造があらわすくらしむき（表Ⅱ－65、表Ⅱ－66）

三世帯では、かさむものが「ある」と回答した世帯が93.7%、きりつめているものが「ある」と回答した世帯が78.7%であった。かさむものでは「主食費」「副食費」「光熱費」「水道代」「ガソリン代・車の維持費」「交際費」「電話代・通信代」「看護・介護のための費用」「教育費」「子どもや孫の養育費」「所得税などの税金」「酒・たばこ」「民間の生命保険などの掛け金」などが合計値より高い割合である。きりつめているものとしては「家具家庭用品代」「外食費」が高い割合である。「夫婦と子」の世帯でも三世帯と同じく、かさむもの、きりつめているものが共に高い割合であった。共に高い「三世帯」と比較すると、かさむものに「住宅ローン」が加わっている。また、きりつめているものには高い割合の項目が多く「主食費」「光熱費」「外食費」「娯楽費」「こずかい」などである。「一人親と子」「単身」ではかさむものが「ない」の割合が高く、さらに「単身」ではきりつめているものも「ない」とする回答が高い割合である。しかし、「一人親と子」では、かさむものの項目として「医者・薬代」といった命に関わる項目や、「公的年金や医療保険などの保険料」など「所得税などの税金」といった個人ではどうしようもない固定的出費に関わる項目が高い割合である一方、「水道代」「ガソリン代・車の維持費」「衣服・身の回りの品代」「家具・家庭用品代」などが切りつめるものとして合計値に比べ高い割合となっており、厳しい生活状況が現れている。生活に欠かせない「水道代」をきりつめているのは「単身」でも同様である。

介護の必要な家族のいる世帯では、かさむもの、きりつめるもの共に「医者・薬代」「看護・介護のための費用」、などが高い割合で現れてくるとともに、各世帯の類型では現れていなかった項目が高い割合として現れているのが特徴である。

小学生以下の子どもがいる世帯でも、かさむもの、きりつめているものともに「ある」が高い割合であり、住宅に関する費用や「子や孫の養育費」が家計を圧迫している状況があきらかである。

(6) 健康状態（表Ⅱ－70）

健康状態で特徴的な点は「一人親と子」の世帯で精神的なストレスによる症状が多く現れていることである。「夫婦のみ」「単身」では身体的な疲労からくる症状の項目で高い割合のことが多い。介護な必要な家族のいる世帯では、世帯員数のすくない「夫婦のみ」「単身」で多くの項目で高い割合のものが多く、厳しい状況となっている。

表Ⅱ－68 世帯構成別にみたかさむもの（複数回答）

	総 数	な い	あ る	主食 費	副食 費	光熱 費	水道 代	家賃・住居 費	住宅ロー ン	（車庫代含む） 車の維持費 ガソリン代・	交通費・タク シー代	交際費（冠婚 葬祭）
合 計	100% 823	(14.6) 120	(85.4) 703	30.7 216	28.4 200	36.7 258	21.8 153	6.1 43	18.1 127	43.4 305	6.4 45	28.6 201
三 世 帯	100% 127	(6.3) 8	(93.7) 119	41.2 49	39.5 47	52.1 62	32.8 39	2.5 3	15.1 18	56.3 67	3.4 4	32.8 39
介護の必要な家族がいる世帯	100% 37		(100.0) 37	37.8 14	43.2 16	43.2 16	24.3 9		8.1 3	56.8 21	8.1 3	37.8 14
夫 婦 と 子	100% 240	(8.3) 20	(91.7) 220	35.5 78	28.6 63	36.4 80	22.7 50	7.7 17	36.8 81	45.5 100	5.5 12	16.4 36
夫 婦 と 親	100% 46	(13.0) 6	(87.0) 40	32.5 13	27.5 11	47.5 19	20.0 8	7.5 3	5.0 2	37.5 15	5.0 2	50.0 20
介護の必要な家族がいる世帯	100% 20	(15.0) 3	(85.0) 17	29.4 5	29.4 5	58.8 10	17.6 3	5.9 1	11.8 2	41.2 7		41.2 7
一 人 親 と 子	100% 47	(21.3) 10	(78.7) 37	27.0 10	27.0 10	40.5 15	27.0 10		2.7 1	40.5 15	5.4 2	29.7 11
夫 婦 の み	100% 217	(17.1) 37	(82.9) 180	22.8 41	22.2 40	31.1 56	16.7 30	5.6 10	12.2 22	46.1 83	8.9 16	31.1 56
介護の必要な家族がいる世帯	100% 27	(18.5) 5	(81.5) 22	22.7 5	13.6 3	18.2 4	13.6 3	13.6 3	4.5 1	45.5 10	13.6 3	27.3 6
単 身	100% 139	(28.1) 39	(71.9) 100	24.0 24	28.0 28	25.0 25	15.0 15	9.0 9	3.0 3	24.0 24	8.0 8	38.0 38
介護の必要な家族がいる世帯	100% 28	(14.3) 4	(85.7) 24	33.3 8	29.2 7	29.2 7	16.7 4	12.5 3	4.2 1	16.7 4		25.0 6
そ の 他	100% 7		(100.0) 7	14.3 1	14.3 1	14.3 1	14.3 1	14.3 1		14.3 1	14.3 1	14.3 1
小学生以下の子どもがいる世帯	100% 56	(5.4) 3	(94.6) 53	45.3 24	26.4 14	35.8 19	22.6 12	18.9 10	49.1 26	41.5 22	1.9 1	11.3 6

表Ⅱ－69 世帯構成別にみたきりつめているもの（複数回答）

	総 数	な い	あ る	主 食 費	副 食 費	光 熱 費	水 道 代	（車庫代含む） 車の維持費・ ガソリン代・ シー代	交通費・タク シ―代	交際費（冠 葬祭） 婚費
合 計	100% 823	(28.8) 237	(71.2) 586	23.2 136	26.3 154	42.3 248	22.9 134	18.3 107	7.7 45	12.5 73
三 世 帯	100% 127	(21.3) 27	(78.7) 100	25.0 25	28.0 28	39.0 39	19.0 19	17.0 17	9.0 9	8.0 8
介護の必要な家族がいる世帯	100% 37	(24.3) 9	(75.7) 28	28.6 8	32.1 9	46.4 13	17.9 5	17.9 5	14.3 4	7.1 2
夫 婦 と 子	100% 240	(19.2) 46	(80.8) 194	26.3 51	27.8 54	46.4 90	24.7 48	18.0 35	6.2 12	13.4 26
夫 婦 と 親	100% 46	(32.6) 15	(67.4) 31	22.6 7	22.6 7	45.2 14	16.1 5	22.6 7	12.9 4	9.7 3
介護の必要な家族がいる世帯	100% 20	(35.0) 7	(65.0) 13	30.8 4	30.8 4	53.8 7	38.5 5	38.5 5	23.1 3	15.4 2
一 人 親 と 子	100% 47	(27.7) 13	(72.3) 34	20.6 7	23.5 8	38.2 13	29.4 10	23.5 8	8.8 3	14.7 5
夫 婦 の み	100% 217	(30.9) 67	(69.1) 150	20.0 30	25.3 38	40.0 60	20.7 31	20.0 30	9.3 14	16.0 24
介護の必要な家族がいる世帯	100% 27	(33.3) 9	(66.7) 18	33.3 6	27.8 5	27.8 5	22.2 4	27.8 5	27.8 5	22.2 4
単 身	100% 139	(46.8) 65	(53.2) 74	21.6 16	24.3 18	41.9 31	27.0 20	13.5 10	4.1 3	9.5 7
介護の必要な家族がいる世帯	100% 28	(57.1) 16	(42.9) 12	33.3 4	16.7 2	50.0 6	25.0 3	16.7 2	8.3 1	8.3 1
そ の 他	100% 7	(57.1) 4	(42.9) 3		33.3 1	33.3 1	33.3 1			
小学生以下の子どもがいる世帯	100% 56	(23.2) 13	(76.8) 43	30.2 13	20.9 9	32.6 14	18.6 8	14.0 6		11.6 5

その他	民間の生命保険などの掛け金	農業や商売などの生業費	住宅ローン以外のローンや借金	酒・タバコ代	外食費	消費税	所得税などの税金	子どもや孫の養育費	教育費	公的年金や医療保険などの保険料	看護・介護のための費用	医者・薬代	電話代・通信費
1.0	18.2	2.4	4.7	11.1	5.7	7.5	17.2	8.7	13.7	21.9	5.1	20.3	11.9
7	128	17	33	78	40	53	121	61	96	154	36	143	84
	28.6	0.8	5.0	14.3	5.0	8.4	20.2	11.8	26.9	24.4	9.2	20.2	17.6
	34	1	6	17	6	10	24	14	32	29	11	24	21
	29.7	2.7	5.4	10.8	2.7	2.7	27.0	5.4	27.0	27.0	27.0	35.1	16.2
	11	1	2	4	1	1	10	2	10	10	10	13	6
1.4	23.2	2.3	8.6	12.7	6.8	7.3	13.2	15.9	23.2	16.8	2.7	17.3	13.2
3	51	5	19	28	15	16	29	35	51	37	6	38	29
	17.5	5.0	5.0	12.5	10.0	7.5	25.0	2.5		17.5	12.5	22.5	7.5
7	7	2	2	5	4	3	10	1		7	5	9	3
	23.5	11.8	5.9	17.6	23.5	11.8	23.5			17.6	29.4	23.5	11.8
	4	2	1	3	4	2	4			3	5	4	2
	10.8	5.4	5.4	10.8	2.7	8.1	21.6	8.1	5.4	27.0	2.7	24.3	18.9
	4	2	2	4	1	3	8	3	2	10	1	9	7
1.7	13.9	3.3	2.2	10.0	5.0	10.0	18.9	4.4	5.6	27.8	4.4	26.7	7.2
3	25	6	4	18	9	18	34	8	10	50	8	48	13
		4.5				4.5	18.2	9.1	9.1	18.2	27.3	27.3	
		1				1	4	2	2	4	6	6	
1.0	7.0	1.0		6.0	5.0	2.0	14.0		1.0	20.0	5.0	14.0	11.0
1	7	1		6	5	2	14		1	20	5	14	11
	4.2	4.2		8.3		4.2	12.5			16.7	12.5	25.0	8.3
	1	1		2		1	3			4	3	6	2
						14.3	28.6			14.3		14.3	
						1	2			1		1	
1.9	22.6		3.8	24.5	9.4	1.9	7.5	24.5	9.4	13.2	1.9	5.7	15.1
1	12		2	13	5	1	4	13	5	7	1	3	8

費電話代・通信	医者・薬代	看護・介護のための費用	衣服・身のまわりの品代	品代家具・家庭用	外食費	酒・タバコ代	娯楽費	旅行費	こづかい	貯金	その他
13.3 78	6.1 36	2.2 13	42.8 251	22.4 131	28.8 169	11.4 67	37.5 220	33.6 197	28.2 165	13.8 81	0.7 4
12.0 12	7.0 7	2.0 2	41.0 41	26.0 26	34.0 34	10.0 10	37.0 37	36.0 36	30.0 30	16.0 16	
14.3 4	7.1 2		42.9 12	28.6 8	46.4 13	14.3 4	35.7 10	42.9 12	32.1 9	14.3 4	
16.0 31	5.7 11	3.6 7	43.3 84	23.2 45	33.5 65	12.9 25	46.4 90	36.1 70	33.0 64	14.9 29	0.5 1
9.7 3	3.2 1	3.2 1	58.1 18	16.1 5	22.6 7	12.9 4	29.0 9	35.5 11	29.0 9	12.9 4	
15.4 2	7.7 1	7.7 1	53.8 7	23.1 3	30.8 4	23.1 3	38.5 5	38.5 5	23.1 3	23.1 3	
14.7 5	5.9 2	2.9 1	52.9 18	35.3 12	23.5 8	8.8 3	35.3 12	29.4 10	26.5 9	17.6 6	
14.0 21	5.3 8	0.7 1	42.7 64	22.7 34	28.0 42	12.7 19	37.3 56	38.0 57	32.0 48	14.7 22	2.0 3
16.7 3	16.7 3	5.6 1	61.1 11	33.3 6	27.8 5	27.8 5	38.9 7	44.4 8	44.4 8	11.1 2	
8.1 6	9.5 7	1.4 1	33.8 25	12.2 9	17.6 13	6.8 5	21.6 16	17.6 13	6.8 5	5.4 4	
8.3 1	16.7 2		41.7 5	25.0 3	16.7 2		25.0 3	25.0 3	8.3 1		
			33.3 1			33.3 1					
11.6 5		2.3 1	41.9 18	7.0 3	30.2 13	16.3 7	44.2 19	25.6 11	46.5 20	14.0 6	

表Ⅱ－70 世帯構成別にみた健康状態（複数回答）

	総 数	ある 具合の悪いところが	身体的疲れによる症状									
			血圧が高い・低い	肩・首すじがこる	背中や腰が痛い・ たるい	ひざが痛い	ある 歯が悪い・虫歯が	足が重い・たるい	あまり歩かない	腕や手がしびれ る・痛い	どつきやいきぎれ	目まいがする
合 計	100% 823	(75.7) 623	32.3 201	26.3 164	24.2 151	18.3 114	17.7 110	15.9 99	14.3 89	11.4 71	4.7 29	4.2 26
三 世 帯	100% 127	(78.7) 100	35.0 35	33.0 33	23.0 23	14.0 14	13.0 13	11.0 11	14.0 14	4.0 4	4.0 4	1.0 1
介護の必要な家族がいる世帯	100% 37	(89.2) 33	48.5 16	27.3 9	27.3 9	18.2 6	9.1 3	12.1 4	15.2 5		6.1 2	
夫 婦 と 子	100% 240	(65.4) 157	21.0 33	31.8 50	18.5 29	7.0 11	14.6 23	8.3 13	15.9 25	10.8 17	5.7 9	4.5 7
夫 婦 と 親	100% 46	(76.1) 35	40.0 14	17.1 6	20.0 7	5.7 2	22.9 8	5.7 2	11.4 4	14.3 5		
介護の必要な家族がいる世帯	100% 20	(100.0) 20	45.0 9	15.0 3	20.0 4	10.0 2	25.0 5	5.0 1	15.0 3	15.0 3		
一 人 親 と 子	100% 47	(72.3) 34	23.5 8	29.4 10	20.6 7	14.7 5	23.5 8	17.6 6	20.6 7	11.8 4	2.9 1	5.9 2
夫 婦 の み	100% 217	(82.0) 178	38.2 68	21.9 39	28.7 51	22.5 40	20.8 37	21.3 38	12.4 22	12.4 22	5.6 10	1.7 3
介護の必要な家族がいる世帯	100% 27	(88.9) 24	29.2 7	25.0 6	29.2 7	29.2 7	16.7 4	45.8 11	33.3 8	16.7 4	16.7 4	
単 身	100% 139	(82.0) 114	35.1 40	22.8 26	28.9 33	36.0 41	16.7 19	24.6 28	14.0 16	16.7 19	4.4 5	11.4 13
介護の必要な家族がいる世帯	100% 28	(85.7) 24	8.3 2	33.3 8	29.2 7	41.7 10	12.5 3	16.7 4	33.3 8	20.8 5	8.3 2	8.3 2
そ の 他	100% 7	(71.4) 5	60.0 3		20.0 1	20.0 1	40.0 2	20.0 1	20.0 1			
小学生以下の子どもがいる世帯	100% 56	(50.0) 28	7.1 2	42.9 12	14.3 4		17.9 5	3.6 1	14.3 4	10.7 3		

5. まちづくりの条件と地域福祉の課題

住民の主体的か参加と協力による地域福祉の活動をすすめ、ひろげるためには、そのための条件が必要である。

今回調査においては、まちづくりを進める上で必要と思われる条件は以下の通りであった。（表Ⅱ－71、表Ⅱ－72）

最も多かったのは「住民相互の日常的な対話交流をひろげる」44.7%、次いで「高齢者や障がい者と子ども・若い人たちとの交流を広げる」31.3%、「身近な地域で住民のくらしや福祉について懇談する機会をつくる・増やす」26.4%といった住民による活動や交流であった。さらに、「行政の施策を分かりやすく住民に知らせる」26.4%、「身近な地域に障がい者や子ども、高齢者などがいつでも利用できる施設を整備する」19%といった行政による条件の整備や広報の課題、「民生委員・ボランティアと自治会の協力・連携を広げる」17%、「自治会が住民の身近なくらしや健康・安全・防犯などの問題に取り組む」16.9%な

精神的なストレスによる症状															どこも悪くない
疲れがとれない	タバコがやめられない	眼が疲れる	からだがだるい	これから先どうなるのか不安である	夜12時過ぎに寝ることが多い	物忘れをすることが多い	夜よく眠れない	胃腸の調子がよくない	朝、気分よく起きられない	イライラしやすい	ささいなことが気になる	人と話すのがおっくうである	医者に診てもらっている		
19.3 120	19.1 119	18.9 118	14.8 92	14.6 91	13.5 84	13.5 84	11.6 72	10.1 63	9.1 57	8.3 52	6.7 42	4.7 29	51.8 323	(24.3) 200	
16.0 16	27.0 27	19.0 19	16.0 16	10.0 10	17.0 17	9.0 9	7.0 7	8.0 8	10.0 10	4.0 4	3.0 3	2.0 2	43.0 43	(21.3) 27	
18.2 6	21.2 7	27.3 9	15.2 5	6.1 2	15.2 5	9.1 3	6.1 2	9.1 3	3.0 1				51.5 17	(10.8) 4	
29.3 46	27.4 43	19.7 31	15.9 25	10.2 16	22.9 36	8.3 13	10.2 16	8.9 14	10.2 16	12.1 19	5.1 8	3.2 5	29.9 47	(34.6) 83	
8.6 3	31.4 11	20.0 7	5.7 2	8.6 3	11.4 4	8.6 3		5.7 2		8.6 3	2.9 1		48.6 17	(23.9) 11	
10.0 2	30.0 6	20.0 4	5.0 1	15.0 3	10.0 2	15.0 3		5.0 1		15.0 3	5.0 1		65.0 13		
38.2 13	11.8 4	14.7 5	20.6 7	23.5 8	17.6 6	23.5 8	14.7 5	8.8 3	11.8 4	8.8 3	8.8 3	2.9 1	41.2 14	(27.7) 13	
17.4 31	14.0 25	19.7 35	15.7 28	19.7 35	6.7 12	16.3 29	11.8 21	13.5 24	9.6 17	9.0 16	8.4 15	7.9 14	67.4 120	(18.0) 39	
33.3 8	12.5 3	12.5 3	8.3 2	33.3 8	4.2 1	33.3 8	25.0 6	29.2 7	20.8 5	4.2 1	4.2 1	12.5 3	62.5 15	(11.1) 3	
9.6 11	7.9 9	17.5 20	12.3 14	15.8 18	7.9 9	19.3 22	20.2 23	8.8 10	8.8 10	6.1 7	10.5 12	6.1 7	69.3 79	(18.0) 25	
8.3 2	8.3 2	12.5 3	8.3 2	8.3 2	8.3 2	16.7 4	12.5 3	8.3 2	8.3 2	12.5 3	8.3 2		70.8 17	(14.3) 4	
		20.0 1		20.0 1				40.0 2					60.0 3	(28.6) 2	
28.6 8	57.1 16	21.4 6	28.6 8		25.0 7		3.6 1	10.7 3	14.3 4	7.1 2	3.6 1		3.6 1	(50.0) 28	

ど自治会の取組に関すること、「ボランティア活動・地域福祉活動への参加者をもっと増やす」14.7%、「くらし・健康や福祉活動への参加者をもっと増やす」13.9%といった社会福祉協議会がその役割を発揮しなければならないことなどがあげられている。

階層構成別にみると、「経営者層」では「ある」82.8%、「住民同士の日常的な対話交流を広げる」75%、「身近な地域で住民のくらしや福祉について懇談する機会をつくる・増やす」58.3%、「高齢者や障がい者と子ども・若い人たちとの交流を広げる」54.2%などが5割を超えて高い。また、合計値と比較しても全ての項目が高い割合となっている。

「ホホワイトカラー層」でも「ある」の割合が81.4%と高く、「住民相互の日常的な対話交流を広げる」68.5%など高い割合となっている。合計値と比較すると「住民相互の日常的な対話交流を広げる」「身近な地域で住民のくらしや福祉について懇談する機会をつくる・増やす」といった住民同士で進める活動についての項目が高い一方、「行政の施策を分かりやすく住民に知らせる」「くらし・健康や福祉に関わる職員と住民が交流・学習できる機会を増やす」「身近な地域に障がい者や子ども、高齢者などがいつでも利用できる施設を整備